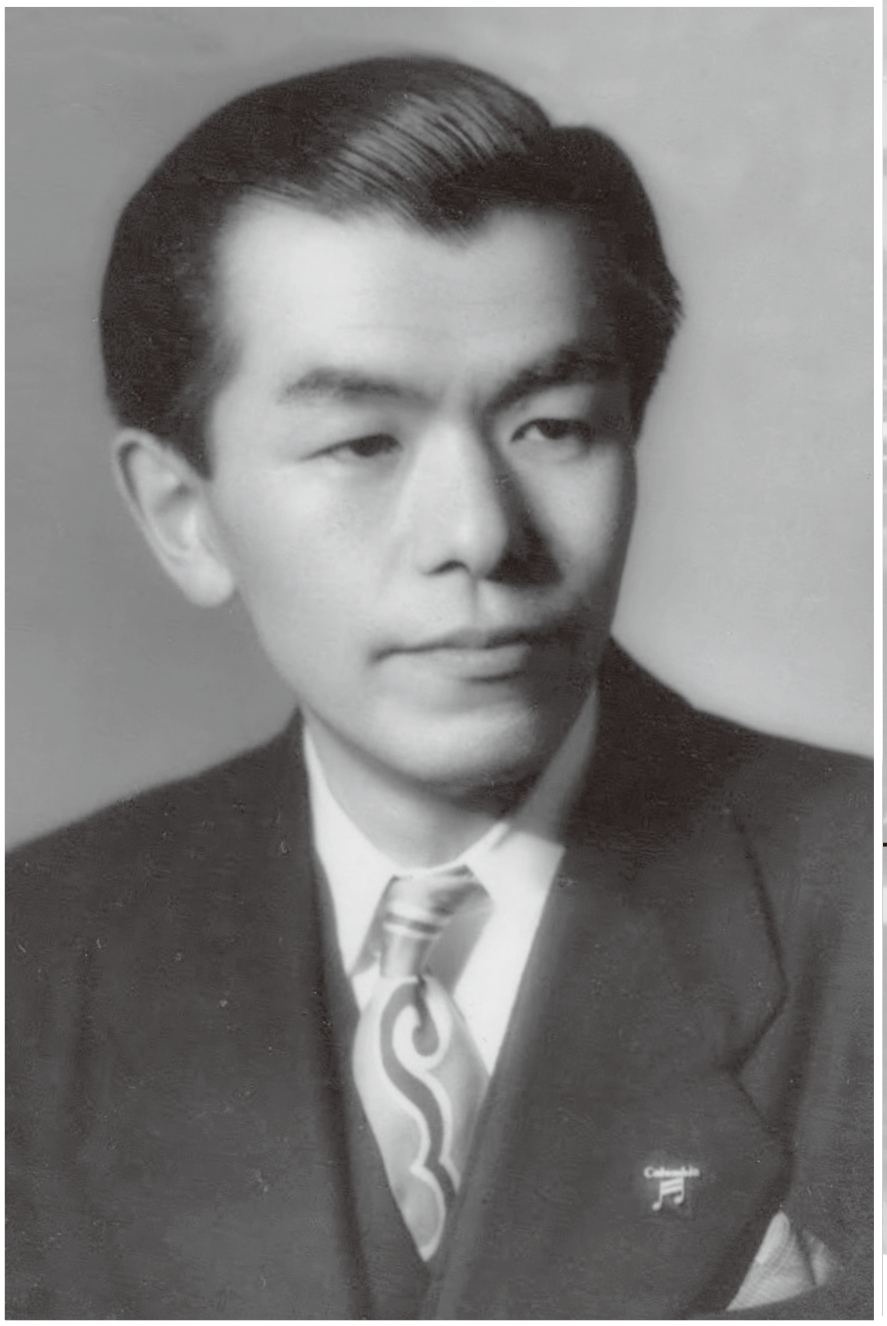


写真提供：福島市古関裕而記念館

鶴ヶ島に残る
名作曲家のメロディー

古関裕而（こせきゆうじ）さん

「オリンピック・マーチ」や、「栄冠は君に輝く」など、今もなお国民に愛される作品や、全国の校歌・社歌など、生涯５０００曲あまりを作曲した古関裕而さん。

現在、ＮＨＫで放送している朝の連続テレビ小説『エール』の主人公のモデルでもある古関さんは、鶴ヶ島中学校の校歌を作曲しています。

昭和を代表する名作曲家との当時のエピソードや、在校生の皆さんの声を紹介します。

【名作曲家と生徒たち】

昭和33年、当時の生徒の皆さんが、直接古関さんに校歌の作曲をお願いしたことがきっかけでした。

その後、古関さんと作詞家の野村俊夫（のむらとしお）さんが鶴ヶ島にお見えになり、校歌が完成しました。

立派な校歌を作ろうと、自ら努力した生徒の皆さんと、作曲の費用がごく僅かにもかかわらず、生徒たちの気持ちをくんで快く引き受けてくれた古関さん。

当時の想いは、今も受け継がれています。

古関・野村先生来校　生徒会のメンバーと一緒に
(昭和34年1月28日)

～年譜～

明治42年　福島県福島市生まれ
昭和11年　「大阪(阪神)タイガースの歌
(六甲おろし 阪神タイガース球団歌)」作曲
昭和14年　「巨人軍の歌
(闘魂こめて 読売ジャイアンツ球団歌)」作曲
昭和23年　「栄冠は君に輝く
(全国高等学校野球選手権大会の大会歌)」作曲
昭和34年　「鶴ヶ島中学校校歌」作曲
昭和39年　「オリンピック・マーチ(東京五輪)」作曲 など

校歌はこちらで
聞けます

鶴ヶ島中学校HP

校歌

野村　俊夫　作詞
古関　裕而　作曲

緑はてない　武蔵野の
空に清しく　聳える富士を
今日も仰いで　理想に燃えて
学ぶ尊い　師の教え
おお　鶴ヶ島中学校

稔ゆたかな　ふるさとの
土に注いだ　祖先の汗を
常に忘れず　撓まず倦まず
励む勤めの　道一つ
おお　鶴ヶ島中学校

風の歌にも　紅の
若い血潮は　高鳴るものを
友よ腕組み　大志を抱いて
行こう学びの　幾山河
おお　鶴ヶ島中学校

校歌制定(昭和34年3月14日)

校歌誕生のエピソード

―生徒会誌十二号(昭和三十三年度)より―

校内にいつもちあがったか校歌作成の意気が高まった。鶴中開校以来十一年たった今、校歌作成までこぎつけるとは長かったようでもある。私は十一年前はまだ四才でした。十一年という年月は長いようでもあるし短いようでもある。埼玉県でも指折りの施設を持つまでに発展してきた今日、立派な校歌は更に輝きを添えるものである。

さて十二月上旬に第一回目の校歌作成に関する代議員会が開かれた。私たちは喜んでこれに参加しました。その時校長先生は、校歌と行進曲を作ったらどうだろうと話された。しかし、経費の関係で行進曲まではできるかどうか危ぶまれた。代議員会が終わると各クラスの代議員は、ホーム・ルームに報告し、みなの意見を聞いた。そして再び代議員会が招集された。この時作曲者は古関裕而先生にお願いしようということに意見は全員賛成で決定。お願いする方法は誰かが古関先生に文書でお願いすることになり、三年の中里初江さんが第一回の手紙を去年の暮れに出した。ところがなかなか返事が来ず一月の十日ごろになっても来ないので、再び第二回目の手紙を出した。すると一月中旬ごろ古関先生から、くわしい説明を求める返事が来た。そこで校長先生が古関先生の家へお伺いし、いろいろ話された結果、「作りましょう」という快い返事をしてくれた。

その後、PTAと先生方、それに同窓会関係の方も入って結成された校歌作成委員会と生徒側の代表である代議員会などの数回の会合により、作曲古関裕而先生、作詞野村俊夫先生と決定した。一月二十八日には古関先生と野村先生が学校へわざわざ見えられて細かい打合せをした。私たちも二人の先生からちょっぴり話をしてくださった。

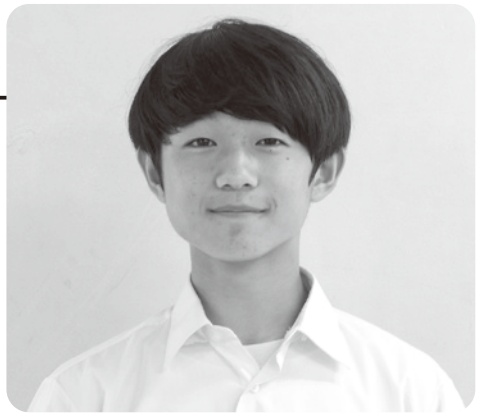
こうしてついに完成した校歌はいつまでもいつまでも鶴中のある限り永久に親しまれて歌われて行くことであろう。立派な校歌、立派な施設の中で勉強に運動に諸君、はげもう。

（校歌完成まで　二年　井上　和男）

※　原文のまま掲載しています

皆さんに聞きました

加藤（かとう）　湊人（みなと）さん　3年生



この校歌から何を感じますか？

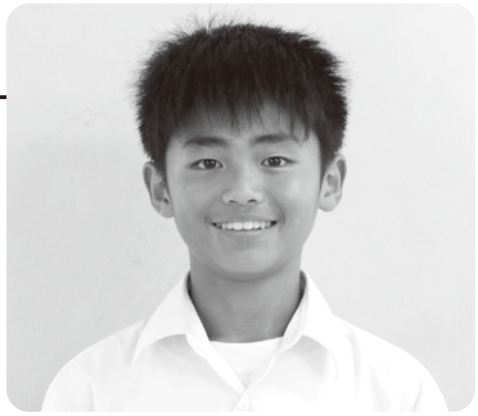
先輩方の努力や、学校や生徒の雰囲気、周辺の風景などを直に見て作曲された古関先生が歌に込めた想いです。この歴史ある我が校の伝統を、生徒全員が誇りに思えるように伝えていきたいです。

御代川（みよかわ）　真子（まこ）さん　3年生

古関さんの生き方をどう思いますか？

激動の社会を生きながら、生涯愛する作曲を続けたところが、強い信念を持っていて素晴らしいと思いました。古関先生に鶴ヶ島中学校の校歌を作ってもらえたことをとても誇りに思います。

曾根（そね）　滉太（こうた）さん　2年生



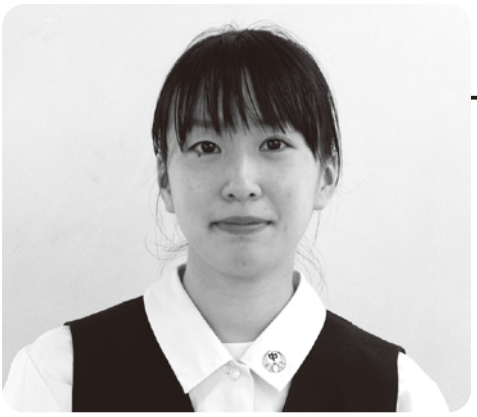
この校歌をどう思いますか？

実際に鶴ヶ島まで来てくださって、先輩方の笑顔を見たり、想いを聞いて校歌にしてくれているので、すごく誇りに思っています。

中里（なかざと）　健太（けんた）さん　2年生

この校歌を受け継いでいくには？

この学校のあるべき姿というものを、鶴ヶ島に来て見て感じて作っていただいたので、その曲の意味をしっかりと捉えて、自分たちの次の世代へと受け継いでいきたいです。



山口（やまぐち）　舜（しゅん）さん　3年生

どのような校歌だと思いますか？

校歌には「勉学への心構え」「郷土愛」「将来への決意」の三つの意味があり、生徒のあるべき姿を表している曲だと思います。明るく、力強く、歌いやすいこの校歌は、とても素晴らしいと思います。

外池（とのいけ）　良后（りょうご）さん　3年生

これから、鶴中をどんな学校にしたい？

根気よく手紙を送り、古関先生・野村先生に感謝の気持ちを伝えた先輩方を見習い、人に対してしっかりと感謝の気持ちを持てる生徒がいる学校にしていきたいと思います。

古市（ふるいち）　愛佳（まなか）さん　2年生

この校歌の好きなところは？

私はこの曲の始まりのリズム感や、サビの力強いところが好きで誇りに思います。これからも鶴ヶ島中学校生としてしっかりと受け継いでいきたいと思っています。

校歌の完成時に、古関さんは「この曲はゆっくり歌えば校歌にふさわしく、早く歌えば応援歌になる」とおっしゃったそうです。
校歌として、また応援歌として、古関メロディーは鶴ヶ島中学校の生徒や卒業生の心にいつまでも響き続けます――。

鶴ヶ島中学校の校歌碑